

目黒区消防団運営委員会（第2回）会議録

1 開催日時、場所

令和4年7月26日（火）午後3時00分から4時15分まで
目黒区総合庁舎4階特別会議室

2 出席者（敬称略）

(1) 委員長

青木英二（目黒区長）

(2) 委員

斉藤やすひろ（都議会議員）、西崎つばさ（都議会議員）、青木英太（区議会議員）、
芋川ゆうき（区議会議員）、金井ひろし（区議会議員）、西村ちほ（区議会議員）、
武藤まさひろ（区議会議員）、熊谷謙志（目黒消防署長）、三木廣（目黒消防団長）

(3) 事務局

目黒区：副区長、危機管理部長、防災課長
目黒消防署：警防課長

3 傍聴者

なし

4 諮問事項

「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」

5 報告事項

- (1) 令和3年度特別区消防団運営委員会への諮問について
- (2) 諮問事項に対する検討の方向性について
- (3) 第1回運営委員会書面会議（意見書）の結果

6 議事

- (1) 答申（素案）について
- (2) 今後の審議予定について（案）

7 配布資料

- (1) 目黒区消防団運営委員会委員名簿
- (2) 令和3年度特別区消防団運営委員会への諮問について（写し）

- (3) 諮問事項に対する検討の方向性について（第1回委員会配布資料）
- (4) 第1回目黒区消防団運営委員会書面会議における提出された意見書について
- (5) 諮問事項に対する答申（素案）について
- (6) 特別区消防団配置の現行コンテンツ一覧
- (7) 特別区消防団新規資機材一覧（案）
- (8) 特別区消防団配置資機材一覧
- (9) 今後の審議予定（案）

8 会議概要

- (1) 開会
- (2) 委員長あいさつ
- (3) 委員の紹介
- (4) 会議の公開等の取扱について
- (5) 報告事項

ア 令和3年度特別区消防団運営委員会への諮問について

イ 諮問事項に対する検討の方向性について

ウ 第1回運営委員会書面会議（意見書）の結果

前回（令和4年1月）の書面会議の内容と、提出された意見書について事務局より報告を行った。

委員意見：デジタル環境を活用した訓練に関して、東京都でデジタルスキルを地域で向上させる取組を行っている。説明員や講師を派遣してインターネット環境に慣れ親しんでいくことで消防団員のスキルアップもできると思う。

事務局：東京都の事業について、消防団全体や分団単位で活用できるように周知していく。

(6) 議事

ア 答申（素案）について

【委員意見①】

委員意見：消防団員に対する指導において、指導者によって指導内容が異なっていることもあり、何が本当なのか分からないことがある。東京消防団eラーニングにも細かい部分までは出ていないようなので、技術の差異が生じないように、統一した見解や方法を示してもらいたい。

事務局：東京消防団eラーニングシステムを主管している東京消防庁の消防団課に意見を伝え、全消防団で統一的な活動ができるように要望していく。

委員意見：消防団アプリを作るのであれば、地図の中に各分団本部や器具置場の位置、収納されている資機材等が確認できるように「見える化」したり、報告等を

アプリ上でできると事務負担の軽減につながると思う。

事務局：GIS等を活用した地図の「見える化」や、各分団から消防署に提出していただく書類等をアプリ上でできるようにすることなど、消防団アプリを利用することで利便性が向上し、分団の手間が省けると思うので、答申案に反映させていく。

【委員意見②】

委員意見：消防団アプリは一般の方も使うことは可能なのか。

事務局：現段階としては、消防団員に限るということで考えている。

委員意見：スマートフォンの普及率が高まり、例えば災害に関して写真を撮って送るだけで状況が確認できるので、一般の方々をうまく巻き込んだ仕組みづくりも、今後の展望として考えていったほうが広がりがあると思う。

【委員意見③】

委員意見：今後の消防団の役割として、地域防災力の向上の核としての活動が非常に大きいと思う。消防団員の入団促進というところで、従前から求められている役割がますます高まっている、ということを入れることを提案する。

事務局：入団促進について、地域防災力の核になるという文言を追記していく。

委員意見：デジタル環境の活用による研修・教育において、現状のeラーニング環境では素晴らしいものが出揃っているが、これがなかなか体系化されていない。今後、階級等によって体系化することは消防団の能力向上の方策になるのではないか。

事務局：今後eラーニングの、階級や教育フローに基づいた体系化について、消防団課に要望として挙げていきたいと思う。

委員意見：SNSを活用した広報活動の促進について、各消防団や分団単位の情報発信が、効果的にできれば理想だが、日常の仕事を抱えながら、各分団の活動をしている中で、さらに精度の高い発信をお願いすることは厳しいのではないかと思う。むしろイメージを悪化させてしまう恐れもある。きちんと消防団のイメージをブランディング化できるような発信に努めたほうが効果的なのではないか。

事務局：SNSの発信について、意見のとおり危険性もあると思うので、事務局で検討し答申案に反映させていく。

委員意見：女性団員の入団促進は非常に重要だと思う。今回は消火活動の諮問だが、女性団員は応急救護等、地域の人に何かあった際に活動できるようにという希望もあって入団している。募集広報の充実・強化という意味では、そうした分野も力を入れても良いのではないか。

事務局：事務局で検討し、答申案に反映させていく。

委員意見：消防団の消火活動に対する細かいところになるが、いつまで二重巻ホースを使っているのかと常々思っている。具体的な活動に対して、実践的にやっていくのであれば考えなければいけないのではないか。

事務局：最近の訓練では、二重巻きホースではなく、折り島田を使ってみたり、可搬ポンプ積載車で現場に到着してからの活動訓練を実施した。今後はこうした訓練も併せて実施し現場で生きる訓練を実施していきたい。

【委員意見④】

委員意見：日中に発災した場合に備え、目黒区へ働きに来ている方々に対し、一定規模以上の企業に働きかけ、その企業の方々の入団を促進していくという考え方があるのか。

また、若い方々が起業していたりもするので、そうした若い方に入団促進を図っていくというような考え方があるのか。

事務局：現状として、一定規模以上の企業への働きかけは行えていない。居住地の消防団員ではなく、勤務地の消防団員の確保は非常に重要なので、答申案に反映させていく。

【委員意見⑤】

委員意見：震災に特化した訓練に関して、消防団員の中でも個人差があり、それを埋めるような訓練ができればと思うが、具体的にどういったものが想定されるのか、どんな対応ができるのか。また、女性団員が訓練に子どもを連れてこられるような工夫として、例えば消防署の女性職員の方が来ていただけるのかどうか確認したい。

事務局：具体的に実際できることは今の段階ではない。答申案では提言の段階なので、具体的な考えまで至っていない状態である。ただ、目黒区消防団運営委員会として提言していくので、目黒消防団でできることに関しては今後実施していく必要がある。今後、考えたうえで提示をしていきたい。

委員意見：若い世代の消防団員の確保について、入団可能な年齢を18歳から引き下げるという提言だが、若い世代の方が入団するのであれば、情報交換等、消防団としての活動のサポート的なものが考えることはできないか。

事務局：若い世代の団員だけ、横のつながりが持てるような機会を作ることは非常に良いと思う。その部分を提言に反映させるように検討する。目黒消防団の中でも今後考えていきたい。

委員意見：新しい資機材が入った場合、具体的な訓練や、使い方の指導をしてもらえるのか。

事務局：新規資機材導入の際には、消防団員の方が怪我をすることなく、正しく使えるように、教養を含めて指導していきたいと考えている。

委員長：学校等の使用に関して、積極的に区としても今後も協力をしていく課題ではないかと思う。

それから、団本部・分団本部について、これは大きな課題だということは区長としても認識している。都有地や国有地等、公有地でないとなかなか難しいと思うので、引き続きそれぞれ行政の立場でまた協力できればと思っている。

小学校での消防団員による教育については、小さい時から児童に見せていくことは、すごく良いことなので、教育委員会に相談をしていきたい。

募集広報は、めぐろ区報も非常に効果的なので、できるだけよく見える場所に掲載できるように担当にも言っていきたい。

イ 今後の審議予定について（案）

事務局から説明、各委員から意見なし。

(7) その他

目黒消防署長、目黒消防団長あいさつ

9 閉会